



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

九州支部の活動

九州コロイドコロキウムと 今後の支部活動

「九州コロイドコロキウム」(通称：九コロ)はコロイドおよび界面化学部会・九州支部の主要な活動の1つです。30年以上にわたって継続されてきたこの勉強会は、コロイド・界面化学に関わる研究を行っている九州地区および中国・四国地区の研究者が一堂に会し、研究情報を共有するとともに親睦を深める場として機能してきました。学生にとっては初めて参加する「プロの研究者同士の真剣討論」の場であり、若手研究者にとっては研究の裏も表も知り尽くした怖い先生たちの前で喋る「知的バンジージャンプ」の場でした。コロイド・界面化学という比較的狭い分野をコアとするこの勉強会が長く続いてきたのは、関わった先輩方の熱意に加えて、コロイド・界面化学という分野の裾野の広さのおかげだと思います。界面現象の熱力学的・分子動力学的理解から、潤滑などの実用的技術まで、幅広い分野のゲストに参加いただいて、十分な討論時間を用意して講演いただく機会は一般の学会では得られないものであり、九州地区の関係研究者にとってはほかに得難い勉強会であり続けてきました。

私は大学院では九州を離れていたものですから、初めて九コロに参加したのは教員になってからなのですが、熱力学的な解析を専門にしている先生方が幅広い分野に実に楽しそうに質問している(可愛がっている)のがとても新鮮でした。当時の先生方は熱量が高く、楽しそうで、怖かったですね。強いて悪い言い方をすると「ムチャな先生」が多かった気がします。最近は、諸事多忙のため九コロも通常のシンポジウム形式になっていますが、従来は1泊2日の合宿形式でした(さらに昔は2泊3日だったそうです)ので、夜の懇親会も含めて、いろいろな意味で今では実現不可能な「濃厚接触」でした。戻れるわけではないのですが、あの雰囲気は懐かしくはあります。

現在の九州支部は、大学教員数削減の影響を受けて、退職される教員の数だけの若い世代の加入が見込めなくなっています。コロイド・界面化学に関わるコアメンバーが手薄になると、支部としての独自性を失いかねないと危惧しています。九州内の他分野の研究者を呼び込む活動も必要ですが、九州外のコロイド・界面化学研究者との交流を深めることも、支部活動を維持するためには必要であろうと考えます。

昨年度はコロナ禍のために九コロも開



2017年 九州コロイドコロキウム(鹿児島)
ポスターセッション風景

催延期となりました。私が知る限り開催できなかったのは初めてです。本年度の九コロは今井洋輔先生(九州大学基幹教育院)にお世話いただいて9月22日(水)にオンラインで開催します。本来、地域内のアクセスの良さを生かした交流が支部活動の中核です。九コロをオンラインで開催しなければならないことの影響は小さくありませんが、今後の新しい時代に対応した支部活動のあり方を考えるきっかけになりたいと思います。いずれにしましても、今年の九コロはオンライン開催ですので、ぜひ全国(海外)からご参加いただいて、九州の「熱量」を感じて下さい。

〔2021年度コロイドおよび界面化学部会
九州支部・支部長 新留 康郎
(鹿児島大学)〕

© 2021 The Chemical Society of Japan